

### 避難行動

津波に対する影響は時間はある。すぐには動かない事を利用者に説明  
要配慮者のケガの把握、職員（保健師）の手配、人員確保、医療器材の確認

市と調整

### 安否確認

利用者・家族に意向確認

【デイ利用者家族】  
連絡が取れない。預けたままでよいのか。  
対応職員の固定

【入居者家族】  
連絡が繋がらず状況がわからない

【職員】  
安否確認の電話が多くなって対応が大変。連絡したいときに電話が使えない。

利用者家族へ連絡しないよう協力依頼

【デイ利用者】  
一人暮らし。家に帰っても生活できない。

数名の利用者が過ごせる場所、デイルームの空間を確保しておく

【デイ職員】  
電話が繋がりにくい。家に帰したいけど帰せない。宿泊させるスペースがない。

職員の住所、連絡先の一覧を準備しておく  
※必ず連絡が取れるように

衛星電話

一斉メールシステムの導入

災害伝言ダイヤルの使用方法の周知、訓練

衛星電話等外部との連絡・通信手段の確保

【職員】  
勤務外の職員が参集できる？  
→セーフティネット、メール、SNS、災害伝言ダイヤル、電話で確認

### 勤務体制

【出勤できない職員】  
・保育所や学校が休校  
・交通機関が動いていない  
・道の渋滞  
・自宅が被災  
・家族のデイスサービス中止

【帰れない職員】  
・家族の状況がわからず心配  
・子どもが学校から帰ってくる  
・交代の職員は出勤できるだろうか  
・帰る手段がない

地域防災学習会などを開催して、発災時の自家備品をすすめる

家庭内で保育園送迎の順番を決めておく

育児者は参集メンバーをうしろに

家族構成の把握、勤務できる職員のリストアップ

【施設の事務部門】  
・人手不足  
・シフトが組めない

→出勤可否の確認  
出勤可能な非番者に来てもらう  
勤務体制が厚くなるようにシフト組みなおし  
職員の家族ごと施設に避難してもらう

・職員の出勤に問題はなくなる  
・利用者が余震不安  
・職員が疲弊（心身共に負担）

→職員との面談（不安・困りごとと把握）  
疲弊した職員には休暇を与える  
臨時で働いた職員を優先に休暇を与える

### 利用者対応

・職員の衣食住の確保

利用者や職員に加えて、職員家族分の食料等の備蓄

地域ボランティアの協力体制の確認

### 避難者受入

避難者情報がない。介護・支援が必要な不安  
非常食や寝る場所が確保できるかが困る

→当面の間、住民の受入をし（2～3名）非常食の提供を行い、しのいでいただく  
福祉避難所受け入れざるを得ない→食料と寝具は出来るだけ持参してもらう

福祉避難所閉鎖に理解が得られるか  
福祉避難所閉鎖後にどこに移送するか

### 応援職員派遣

応援派遣決めておく？

応援派遣要請はあるが、職員を応援に出すと自施設の営業と応援職員の安否に不安。

- ・応援については、助け合いの精神に基づき派遣する
- ・自施設の安定営業を前提に積極的に関わりたい
- ・出勤できない職員がいるため高知への応援は出せない

### 情報

電気が繋がっていない等で情報が入ってこず困る

伝達情報の整理

計画の作成よりも周知が課題

・送迎ルートの確認

### 事業継続

【デイ利用者家族】  
デイスサービスを早く再開してもらわないと仕事に行けない

福祉避難所閉鎖後の15日（月）からデイ再開

利用者家族へ連絡、対応備品整理

いつから通常運営に戻るか（最悪を想定するか）

出勤人数から食事、入浴などの基本サービスを優先してできるサービスを準備  
施設と関りのある業者へ連絡して営業状況の確認、周知  
余震に備えて対応内容の検証、準備。業務、職員確保、資材の確保等  
今後1週間に発災した場合を考慮した支援内容を整理し伝達

災害時の人員配置、業務の見直し

BCP計画の定期的訓練

水を運ぶもの（リュック、ビニール袋）

非常用トイレの購入

施設内に井戸を掘る

水不足

水が出ない（給水ポンプ停止）  
トイレが使えない

・事務職員が給水所に通う  
・非常用トイレを活用

計画停電中の水使用、トイレ、風呂の不安  
施設内でルールを決めて伝える。  
停電中は入浴週1回など

燃料不足

寒さ

利用者へ毛布を配布する  
暖をとるための衣類の準備、着用  
自家発電設備の運転時間を限定する  
ポータブル発電機の活用  
ビニール等を使った簡易湯たんぽ（ガス使えるので）

自家発電設備の整備

毛布カイロ等の備蓄

電気を使わない暖房器具の準備

停電しているとエアコンが効かず寒い

安全な環境

センサー類停止、安全確認できなくなる  
停電時、設備（吸引機）使用不能  
施設内でのけが人が出ないような環境整備  
夜に電気がなくなると事故などのリスクが増える  
・ランタン等の使用

ポータブル電源の確保

計画停電の時間帯に電気を使わないで困ることが起きないか不安

食事

断水で調理ができない  
エレベータ停止で配膳が大変  
次の食事があるのか不安

保管場所を階の上の方にする

メニューを決めておけば、食料確保できている期間が分かれば安心できる。

計画停電中に食事の準備（調理）に支障が生じる。  
外部に依頼。近隣施設で在庫の確認する。

非常食に慣れてもらうため、普段から調理したりして提供する。

・非常食を提供  
・食料、水の確認（何日分あるか）  
・物品の在庫の確認  
・使用した非常食等の補充

備蓄食品のみでは4日目から食べ物がなくなる  
・業務委託業者に対応協力依頼

業者との事前調整

健康

利用者の健康状態が悪化した場合、病院対応は？  
薬がなくなる可能性がある（受診できない）  
健康状態に不安な利用者をピックアップし状態が低下している方の病院通院を行う  
嚥下医に対して状況を知らせ対応の判断をあおぐ

常備薬の備蓄も重要

ごみの処理

たまった汚物、廃棄物処理  
感染症を防ぐため、消毒等、施設全体の清掃を行う

【凡例】  
 黒字：フェーズ①の困りごと  
 黒字（下線）：フェーズ②の困りごと  
 赤字：フェーズ①の対応  
 紫字：フェーズ②の対応  
 吹き出し：事前に備えておくこと